

学校名 | 兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校

1 ICTを活用した自立活動指導の実際

(1) 指導期間・指導時数(対象者:中3女子1名、昨年度より継続)

「遠隔の指導」① 7月 1日(金) 16:00~16:35 35分

② 10月26日(水) 16:00~16:40 40分

③ 12月 6日(火) 16:00~16:40 40分

合計指導時数:2.5時間

(2) 使用した遠隔システム

Zoom

(3) 指導目標

○長期目標

- ・自分の聞こえの状態を知り、障害認識を深める。
- ・自分の思いや考えを伝える経験を積み、会話のスキルを向上させる。

○短期目標

- ・自分の聞こえに向き合いオンラインでのコミュニケーション方法について考えることができる。
- ・自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりして会話を広げることができる。

(4) 自立活動の区分・項目

・心理的な安定

(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

・コミュニケーション

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

(5) 指導内容

・接続の確認(Zoomの接続から生徒が取り組んだ。)

・天気の話(言葉の確認、今日の天気)

・ゲームをしよう(「遠隔の指導」①あなたも名探偵

②トーキングゲーム

③トーキングゲーム)

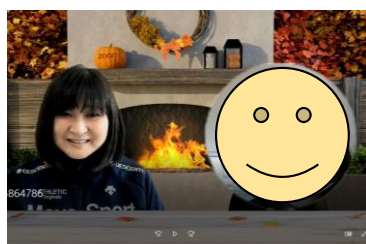
(6) 指導の手立て

- ・聞こえの環境を保障するために、在籍校、本校ともに需用費で購入したマイクスピーカーを使用する。
- ・視覚的な情報として PowerPoint のデータを画面共有しながら指導を進める。
- ・需用費で購入したホワイトボードを活用して、言葉を確認する。
- ・PowerPoint のデータは、事前に在籍校に送付して印刷してもらい生徒がワークシートとして手元に持つ。児童生徒は、指導を受けながらワークシートに記入していく。
- ・ワークシートは、通級指導で使っているファイルに綴じ、在籍校の教師や保護者に内容が伝わるようにする。また、通常の通級指導時に担当者がワークシートの記入状況を確認する。

(7) 指導上の工夫

- ・画面越しの指導であるので、見やすく書き込みのしやすい PowerPoint 作りを心がけた。また、選択して答えることができる項目を多くした。
- ・昨年度指導を受けた外部専門家（公認心理師）より、「心を開かせるためにゲーム的な要素を取り入れるとよい。」とアドバイスを受けていたので、今年度もコミュニケーションの力を伸ばす題材としてゲームを取り入れた。楽しい会話の中でその子どもなりの思いが引き出せるよう意識した。
- ・本生徒が、今年度「遠隔の指導」の継続を望んだ理由が、「オンラインでやる会話がこれからは役立つと思うから。」ということであった。将来使用することが想定される機能やアプリも試してみた。リラックスして取り組んでほしいという思いもあり、イマーシブビュー機能で背面をハロウィン仕様にしてみた。他の背面画像も試してみた。
また、「Speech-to-Text Webcam Overlay」のアプリを使用して字幕表示をつけたオンライン指導に取り組んだ。
- ・「遠隔の指導」でも対面の指導でも、ワークシートの最後には生徒への応援メッセージをつけた。季節感を意識しながら生徒の好みに合わせたイラストをつけ、笑顔で指導が終われるよう心がけた。

< 指導の様子 >
イマーシブビューお試し



< 指導の様子 >
字幕表示



<教材：ワークシート（PowerPoint）の一例>

天気言葉 1 …6月から7月ごろ雨がよく降る時期 今年の 入り…6月14日 明け…6月28日 ○雨の降り方を表す言葉 ポツポツ バラバラ しとしと ザーザー 等 ○空模様や湿度を表す言葉 ピーカン どんより じめじめ おしおし べたべた カラッ 等	天気言葉 2 ○だれかと話をするとき、あいさつの次に天気のことを話題にすることがよくあります。 さて、今日の天気はどんな天気でしょう。	ゲームをしよう 1 めいたんてい <あなたも名探偵> 泥棒：ぬすんだ物の言葉をホワイトボードに描く。 探偵：泥棒がぬすんだ物は何か当てる。 探偵は、「それは〇〇ですか。」と質問する。 泥棒は、「はい」か「いいえ」で答える。 探偵は、答えがわかったら 「ずばり、それは、〇〇ですね！」 できるだけ少ない質問で当てよう。
ゲームをしよう 1 <トークンゲーム> ○ゲームの内容 カードに書かれた質問に答えます。 周りの人はその答えをだまて聞きます。 ○ゲームの進め方 ①カードを1枚選びましょう。 ②カードに書かれている質問を読み上げ、質問に答えます。 答えたくないときは、PASSして次のカードにすることができ ます。 ③質問に答えているときは、他の人は最後までしっかりと聞か す。 ④ゲームが終わってから質問タイムを作ります。	ゲームをしよう 2-① ○何番のカードを選びますか。 ①  ②  ③  ④ 	もうすぐクリスマス ですね。 ○〇さんのおうちには、 サンタさんが来るのかな…。 寒くなってきたので、暖かくして 体調管理に努めてね(^_-)☆ 次は、12月14日(水)来校通級 で会いましょう。

(8) 校内の指導体制

- ・Zoomの接続、操作方法についてICT委員会が協力した。
- ・難聴児を遠隔で指導するにあたって、聞こえの環境を保障するための機器の選定について聴能部が協力した。(昨年度)
- ・遠隔の指導の際には、必要に応じて聴能部、支援教育部が同席した。

(9) 関係機関との連携(在籍校・保護者・医療・福祉等)

- 在籍校(特別支援コーディネーター)
 - ・日程の調整、ワークシート準備、Zoom接続、遠隔の指導時の付き添い、情報共有
- 保護者
 - ・ワークシートを見て内容の確認、通級指導の付き添い時に情報共有
- 外部専門家(但馬教育事務所学校支援専門員)
 - ・「遠隔の指導」の録画を見ていただいたり、対面の通級での様子を情報共有していただいたりして、指導・助言を受けた。

2 成果と課題

児童生徒の変容

(指導開始前)

- ・通級指導の担当者が昨年度から継続（2年目）であり、「遠隔の指導」も2年目である。Zoomの接続や操作にも慣れており、在籍校の教員に見守ってもらいながら安心して主体的に取り組むことができています。
- ・ある程度の語彙力があり、形式的な会話はできるが、相手の言葉を受け止めながら会話を広げていくことが難しい。

(指導開始後)

- ・時と場合に応じてリアクション表示を出し、楽しみながら取り組むことができた。イマーシブビュー機能で背面設定のお試しをして、「遠隔の指導」は一对一であるが、将来3名以上のオンライン会議に参加する可能性があることに気づき、イメージが膨らんだ。
最終回は、在籍校の教師が付き添うことができず、最初から最後まで本生徒一人で「遠隔の指導」を受けた。「心細かった。」と言いつつも自分だけでできたことが自信につながった。
- ・天気の話や「トーキングゲーム」に取り組む中で、自分の生活や趣味、志向をもとに考え、会話を広げる経験を積むことができた。また、相手の言葉を受け止めながら会話を進め、会話を続けるための質問を考えることができるようになってきた。

成果

- ・本校では、月1回90分対面の通級指導（年2回在籍校訪問）を行っている。今年度も通常の通級指導の間に「遠隔の指導」を設定した。在籍校や生徒の都合で通級指導が中止になることがあったが、「遠隔の指導」を実施することで、長期間の空白がなく指導を継続することができた。また、在籍校の教師と連絡を密にとることができた。
- ・通常の通級指導と「遠隔の指導」を関連づけて指導することで、学習内容の積み上げができた。
- ・2年間「遠隔の指導」に取り組み、Zoomの操作に慣れることができた。また、オンラインならではの視覚支援を工夫した。生徒もいろいろな視覚支援があることに気づき、相手と会話のやりとりをする場面では、身振り手振りをつけることやうなづくこと等を意識して話すようになった。
- ・今年度、外部専門家を但馬教育事務所学校支援専門員の松本茂樹先生に依頼した。聴覚障害教育の専門家から指導を受け、自立活動全体に対して助言をいただき、大変勉強になった。
- ・コロナ禍のため2年間対面での通級開始式が中止となっていたが、今年度通級開始式をオンライン実施した。通級生在籍校6校のうち2校は、昨年度「遠隔の指導」実施の実績があったので、オンライン実施に取り組むことができた。難聴児同士が関わる機会がない中、短時間ではあったが有意義な時間になった。

今後の課題

- ・難聴児を対象とした「遠隔の指導」では、聞こえの環境を保障することが最低条件である。それに加えて視覚支援やよりわかりやすいオンライン指導の工夫を今後も研究していく必要がある。今回字幕表示アプリとして「Speech-to-Text Webcam Overlay」を使用したのが、誤変換が多く、正しく表示できるようにしていきたい。オンライン指導全般について ICT 活用に長けた教員に協力してもらいながらそれぞれの教員が ICT 活用能力を高めていく必要性を感じている。
- ・天候や通信状況によって遠隔システムが不安定になる（つながりにくい、音声聞き取りにくかったり途切れたりする、画面がかたまる等）ことがあり、万能ではない。「遠隔の指導」と対面の指導を組み合わせ、それぞれのよさを生かした指導を行っていきたい。
- ・2年間の「遠隔の指導」で対象とした2名については、マイクスピーカーの使用や視覚的な情報を提示することでオンラインの指導に取り組むことができた。しかし、子どもの聞こえによってはオンラインでの指導が適さないケースがある。また、オンラインでの聞き取りや会話が可能であっても、対面でのきめ細やかで柔軟な対応が必要なケースがあるため、オンラインの指導を実施する場合は、十分な検討が必要である。
- ・2年間の「遠隔の指導」に取り組んだが、対象児童生徒の実態から子どもと通級担当の一对一の関わりが中心で、子ども同士をつなぐことができなかったことが残念である。今後条件が合えば、子ども同士をつないだり、難聴の先輩と子どもをつないだりする取り組みを考えたい。
- ・今年度は、「遠隔の指導」対象者の条件として、「児童生徒本人が「遠隔の指導」を希望していること」という一文を付け加えた。昨年度対象2名のうち1名（小6）は希望しなかった。授業時間外に「遠隔の指導」を実施するなら小学校では、昼休みの設定になり、児童の負担感が大きいことが要因である。

昨年度対象外だった児童2名にも希望の有無を確認したが、希望がなかった。

今年度対象の生徒（中3）に希望の有無を尋ねたところ結果的には実施することになったが、やはり負担感があり、決断には時間を要した。

「遠隔の指導」の利点がある一方、児童生徒や在籍校の負担が大きいことは明白であり、指導の持ち方や対象者の選び方について工夫改善が必要である。今後オンラインによる指導を実施する場合は、児童生徒本人、保護者、在籍校と十分な合意形成を行った上で実施したいと考える。

3 ICTを活用した自立活動指導についてのコメント （児童生徒、保護者、教員等の声）

< 生徒 >

- ・「遠隔の指導」をやってみて、遠い場所にいる人とのコミュニケーションがパソコンでできて、まるで対面で話しているような雰囲気だった。でも、オンラインは相手に伝える努力（うなずくとか）が必要だとわかった。

<保護者>

- ・通級と通級の間に遠隔で指導してもらい、モニター画面を通して指導してもらうことが難聴児にとって良いものになっていると感じた。また、どのようにしたら難聴児が相手に伝えることができるのかを考える機会となり、未来につながっていると感じた。

<在籍校教員：「遠隔の指導」を担当した特別支援コーディネーター>

- ・マイクスピーカーの貸し出しがあり、音量を大きくすることができて音声聞き取りやすかった。音質もよかった。
- ・生徒自身にとってだけでなく、難聴児が在籍する学校の職員にとって、通級担当の先生を身近に感じることもできたことがよかった。「遠隔の指導」の際に同席することで、生徒と一緒に通級担当と話ができた。何かあれば気軽に質問できる安心感があった。どうしても特別支援学は遠い存在に感じてしまうところがあるが、「遠隔の指導」があったおかげで画面越しではあるが、つながる機会が増えてありがたかった。

4 添付資料

○使用した機材（昨年度需用費で購入）

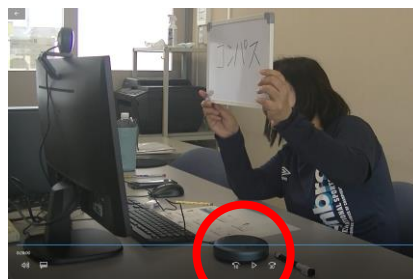
- ・マイクスピーカー（本校、在籍校ともに使用）

商品名：eMeet Luna Lite (Bluetooth 対応)

補聴器を装用している難聴児は、イヤホンやヘッドセットを使用することが難しい。補聴器装用でも使用でき、付き添いの教員にも音声が届くことを条件として考え、機器を選定した。在籍校、本校ともにマイクスピーカーを使用することで音量の調整ができ、担当者の音声を聞き取りやすい音量で在籍校に届けることができた。また、児童生徒の小さめの音声も適切な音量で本校に届いた。

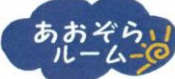
- ・ホワイトボード（本校、在籍校ともに使用）

ゲームの回答を書いたり、言葉の確認をしたりするときに活用した。



↑ スピーカー

○本校のリーフレット



令和4年度 難聴通級指導教室

「遠隔による指導」のモデル研究について

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校 支援教育部（2022年4月）

○「遠隔による指導」とは

地理的・時間的制約等による指導の困難さ等を改善し、児童生徒への指導の効果を高めることを目的に、指導の一部をオンラインによる指導（WEB会議システム等）により実施する指導の形態のことです。

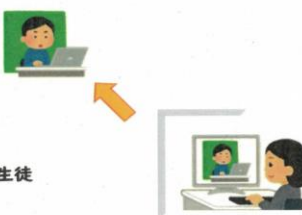
兵庫県教育委員会からの通達で令和3年度から、指導の一部を「遠隔による指導」として実施し、モデル研究を行うことになりました。対面による指導と計画的に組み合わせ、指導の効果を検証します。

「遠隔の指導」の内容は、自立活動の指導です。実施時間や回数は、在籍校と相談しながら進めます。

○令和4年度モデル研究としての対象者は

以下の条件をすべて満たす児童生徒

- ・高学年（小学5年生）以上の児童生徒
- ・自分のきこえについて伝えることができる児童生徒
- ・在籍校と保護者の承諾が得られる児童生徒
- ・児童生徒本人が「遠隔の指導」を希望していること



*詳しい内容、手続き、その他わからないことは「あおぞらルーム」にお問い合わせください。

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校 「あおぞらルーム」担当：元井 電話 0796-22-2114

○令和4年度モデル研究としての対象者は、以下の条件をすべて満たす児童生徒

- ・高学年（小学5年生）以上の児童生徒
- ・自分のきこえについて伝えることができる児童生徒
- ・在籍校と保護者の承諾が得られる児童生徒
- ・児童生徒本人が「遠隔の指導」を希望していること（令和4年度追加した一文）